

マクニカ・富士エレ ホールディングス株式会社 2020年3月期 決算説明会資料（プレゼン編）

2020年5月7日

※本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。
また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

第一部

I 2020年3月期実績（連結）

II 2021年3月期予想（連結）

第二部

I 中期経営計画（2019～2021年度）

第一部

I 2020年3月期実績（連結）

II 2021年3月期予想（連結）

第二部

I 中期経営計画（2019～2021年度）

3

I 2020年3月期実績

連結業績ハイライト（前年比）

（単位：億円）	2018年度 実績	2019年度 実績	差異	前年比	増減要因
売上高	5,242	5,212	▲30	▲0.6%	セキュリティ関連商品が伸長したものの、産業機器向けを中心に景気減速の影響を受け減少
売上総利益	611	599	▲12	▲1.9%	半導体事業の売上総利益率の減少
営業利益	153	144	▲9	▲5.7%	売上及び売上総利益の減少により
経常利益	131	111	▲20	▲15.5%	支払利息及び持分法による投資損失の計上等
親会社株主に帰属する当期純利益	89	56	▲33	▲36.6%	新型コロナウイルス感染拡大を背景とした株式市場の下落に伴う投資有価証券評価損の計上

I 2020年3月期実績

連結業績ハイライト（予想比）

（単位：億円）	2019年度 予想 (7/29発表)	2019年度 実績	差異	予想比
売上高	5,100	5,212	112	2.2%
売上総利益	594	599	5	0.9%
営業利益	133	144	11	9.0%
経常利益	105	111	6	5.4%
親会社株主に帰属する 当期純利益	64	56	▲8	▲11.9%

I 2020年3月期実績

連結貸借対照表

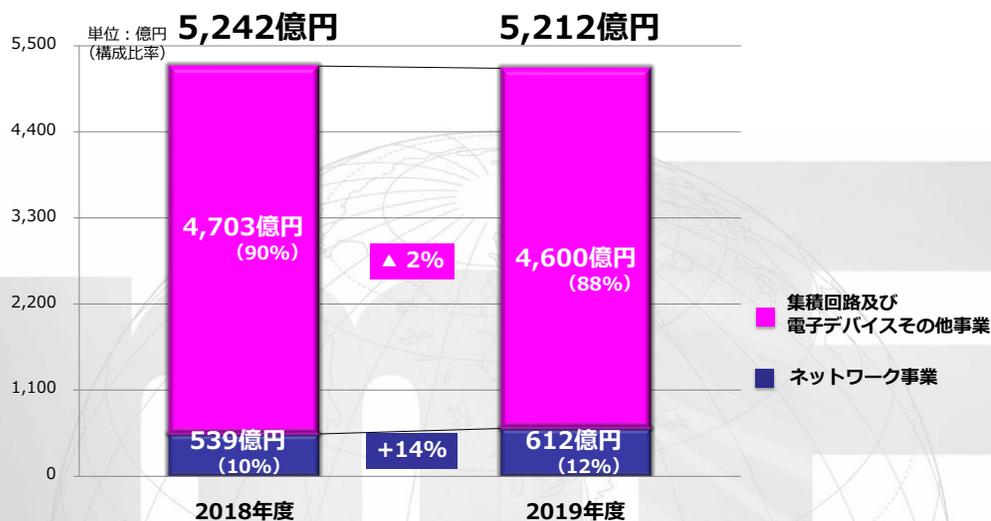
（単位：億円）	2019年 3月末	2020年 3月末	主な要因
流動資産	2,769	2,364	売上債権が43億円増加したものの、商品295億円、 その他流動資産が156億円減少
固定資産	224	269	関係会社株式取得により投資有価証券が47億円増加
資産合計	2,993	2,632	
流動負債	1,495	1,170	仕入債務70億円、短期借入金279億円が減少
固定負債	143	107	長期借入金30億円が減少
負債合計	1,639	1,277	
純資産合計	1,354	1,356	自己株式19億円増加、譲渡制限付株式報酬として新 株を発行したことにより資本金及び資本剰余金がそれ ぞれ2億円増加
負債純資産合計	2,993	2,632	

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)	2018年度	2019年度	主な要因
営業活動によるキャッシュ・フロー	▲302	458	売上債権の増加及び仕入債務の減少があったものの、税金等調整前当期純利益97億円の計上、たな卸資産の減少及びその他の流動資産の減少
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲73	▲89	投資有価証券及び関係会社株式の取得による支出
財務活動によるキャッシュ・フロー	219	▲358	短期借入金、長期借入金の返済による支出、配当金の支払い及び自己株式の取得
現金及び現金同等物の期末残高	140	147	前連結会計年度末の140億円に比べ7億円増加

セグメント別：連結売上高

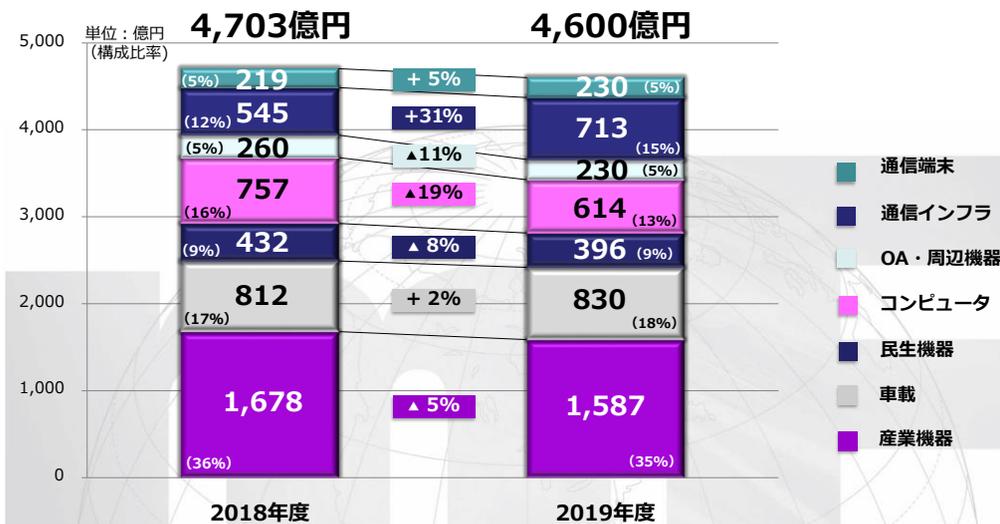
5,212億円 前年比▲0.6%



I 2020年3月期実績

集積回路及び電子デバイスその他事業（用途別）

4,600億円 前年比▲2.2%



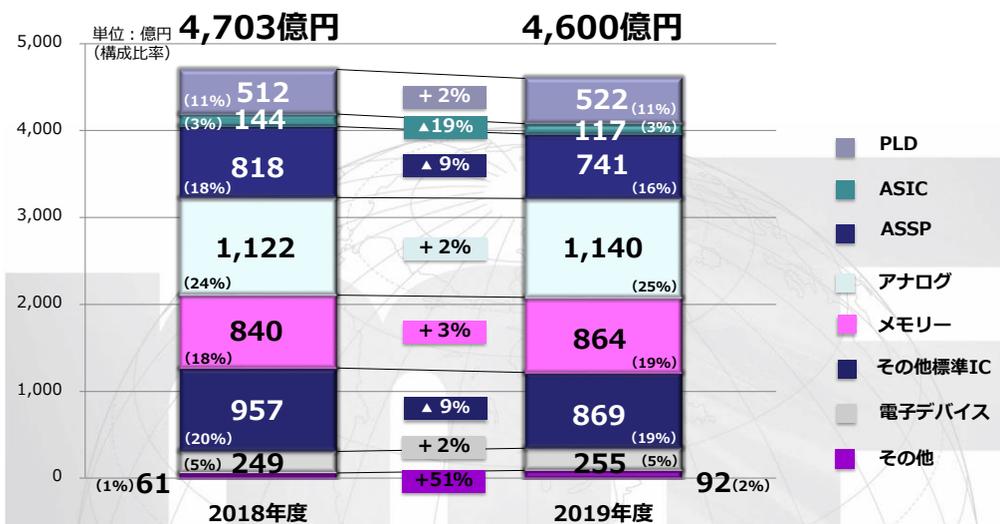
mF Macnica Fuji Electronics

9

I 2020年3月期実績

集積回路及び電子デバイスその他事業（品目別）

4,600億円 前年比▲2.2%



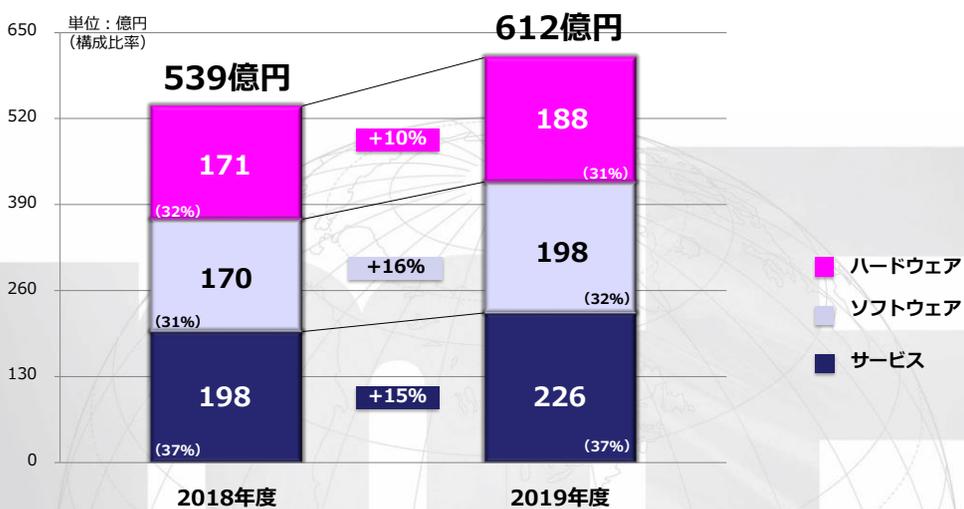
mF Macnica Fuji Electronics

10

I 2020年3月期実績

ネットワーク事業（品目別）

612億円 前年比+13.6%



mF Macnica Fuji Electronics

11

mF
Macnica Fuji Electronics

第一部

I 2020年3月期実績（連結）

II 2021年3月期予想（連結）

第二部

I 中期経営計画（2019～2021年度）

12

2021年3月期予想（連結）

新型コロナウイルスの世界各地への感染拡大が国内外の経済活動に影響

■ 半導体及び電子デバイスその他事業

- 車載は、工場操業稼働率の低迷や消費活動の低下等により先行き不透明
- 産業機器は、新型コロナウイルス対策に伴う医療機器の需要が拡大する見通し
一方、企業の設備投資抑制及び意欲の減退や東京オリンピック延期等に伴い、需要が減少する見込み

■ ネットワーク事業

- 在宅勤務の進展により関連商品が好調に推移する見通し
- 企業の景況感悪化に伴い、IT投資意欲が減退する見込み

■ 見通し

- 現時点において当社グループの事業活動への影響を合理的に算定することが困難なため、未定とさせていただきます。
- 今後、開示が可能になった時点で速やかに公表いたします。2021年3月期配当予想につきましても、上記業績予想と併せて公表いたします。

第一部

I 2020年3月期実績（連結）

II 2021年3月期予想（連結）

第二部

I 中期経営計画（2019～2021年度）

中期経営計画（2019～2021年度）の概要

1. 成長戦略

①半導体事業

- グローバルポジションの確立
- 半導体を応用した付加価値ソリューション

②ネットワーク事業

- セキュリティ
- デジタルソリューション
- グローバル

2. 新規付加価値事業戦略

- macnica.ai
- IoTソリューション
- 自動運転ソリューション
- サービスロボット

3. さらなる業務効率及び資産効率の改善と経営システム基盤への投資

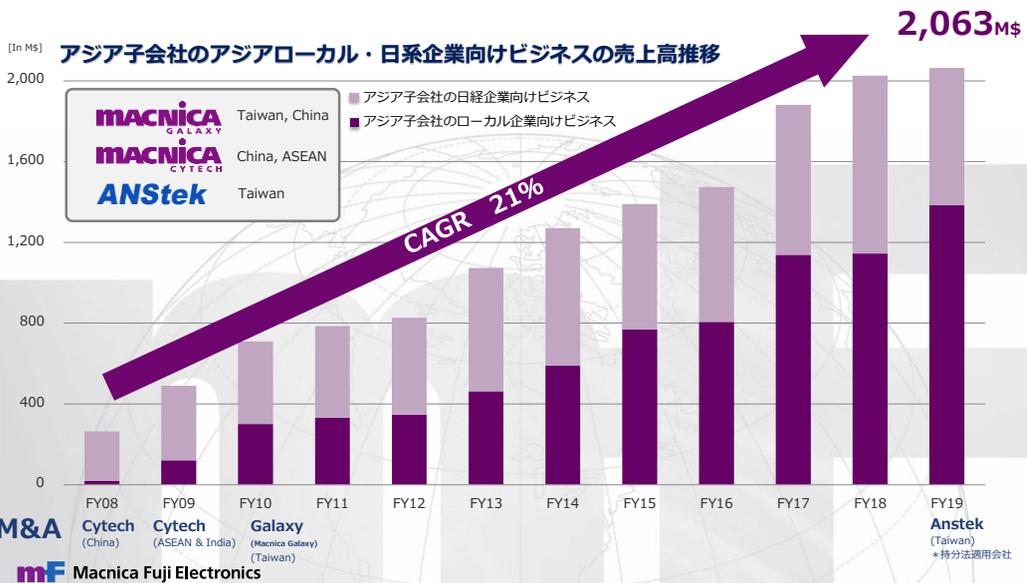
4. 財務・資本施策

売上高 6,500億円以上 当期純利益 130億円以上 ROE 9.0%以上 営業キャッシュフロー (3年間累積) 100億円以上

1 成長戦略：①半導体事業

■ グローバルポジションの確立

成長が見込めるアジア地域を中心とした事業の拡大



1 成長戦略：①半導体事業

■ 半導体を応用した付加価値ソリューション

ものづくりコンサルティング



1 成長戦略：①半導体事業

■ 半導体を応用した付加価値ソリューション

● 事例：大手ゼネコン様 建築物の防災無線ガスセンサ端末



【Before：ご相談内容】
● 建築構造、設置環境が過酷な為無線接続が不安定
● 稼働までの日程がタイトな中確実に製品化を実現したい

【After：コンサルティング内容】
● 自己再生型の無線方式提案により自動復帰が実現し、過酷な環境下でも無線通信を安定化
● 設計から量産までの課題をクリアし希望通りの稼働を実現

● 事例：大手化学薬品メーカー様 消毒用ハンドディスペンサの開発



【Before：ご相談内容】
● 消費電力が高くすぐに電池がきれてしまう上、動作が不安定なため製品改良を行いたい

【After：コンサルティング内容】
● 消費電力のボトルネック解析とデバイス提案を実施
● 製品全体のコスト・リスク低減等 +αの回路提案により大幅な製品の改良化を実現

1 成長戦略：①半導体事業

■ 半導体を応用した付加価値ソリューション

● 事例：ビルマネジメント会社様 IoTを活用した業務効率化ソリューション



【Before：課題】

- 清掃時の消耗品有無の確認、定期巡回
- ごみ箱充填量の定期確認
- 警備員による異常有無の定期巡回



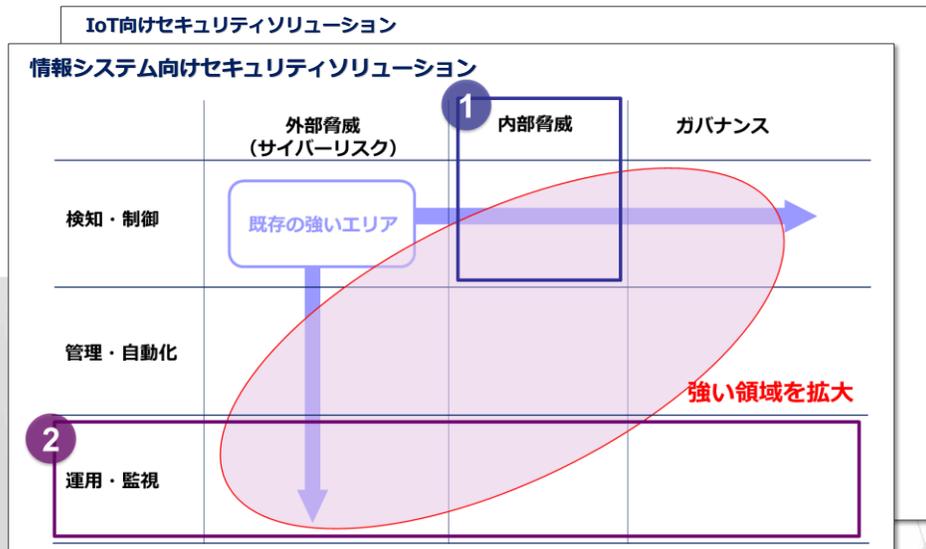
【After：効率化提案】

- 各種消耗品の遠隔把握により確認工数削減
- ごみ箱の充填量把握により回収スケジュールの効率化
- 個室滞在時間の把握により巡回ルートの最適化、長期滞在者の早期発見

1 成長戦略：②ネットワーク事業

■ セキュリティ

セキュリティ市場での圧倒的に優位なポジションの確立



1 成長戦略：②ネットワーク事業

■ セキュリティ

セキュリティ市場での圧倒的に優位なポジションの確立

1 内部不正対策

[ニーズ拡大の背景]

ITのグローバル化
働き方改革/テレワークの加速
M&AによるITシステムの統合
人材流動性の向上

[顧客ニーズ]

役割外の情報へのアクセス可視化
社外秘情報の持ち出し検知
内部不正の抑止
意図的ではない内部不正の防止

導入事例 **J:COM** 株式会社ジュビターテレコム 様

[背景と課題]

関係会社間のセキュリティに対する考え方の統一が課題
個人情報の保護の観点で内部不正対策を検討

資産管理ツールログ

PC操作ログ

その他ログ

exabeam

機械学習を利用したログの
自動的な分析

従業員の行動を
可視化

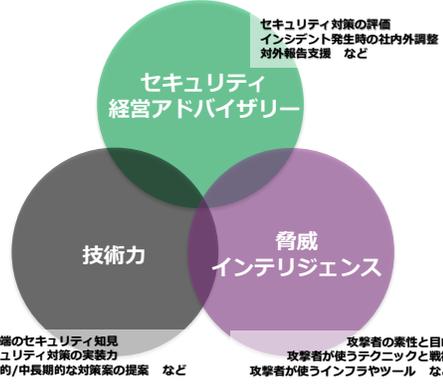
内部不正の検知

mF Macnica Fuji Electronics

2 運用・監視

S&J株式会社との関係会社化(2020年2月発表) **S&J**

経営レベルから技術レベルまで対応したセキュリティ運用
監視サービス



1 成長戦略：②ネットワーク事業

■ デジタルソリューション

ビッグデータ分析基盤、AIをはじめとするDXソリューションの立ち上げ

感情解析AI、ビッグデータ分析を活用しリモートワーク向けDXソリューションを展開予定

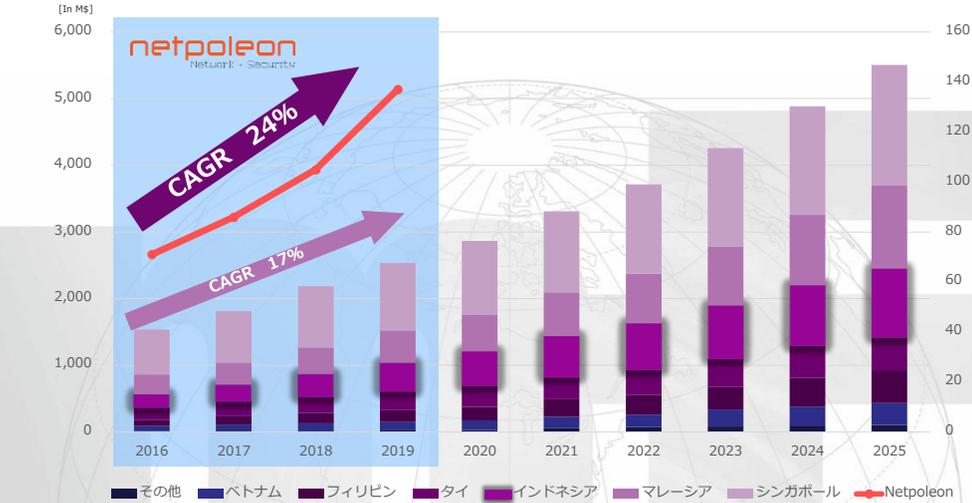


1 成長戦略：②ネットワーク事業

■ グローバル

アジアにおけるセキュリティビジネスの成長

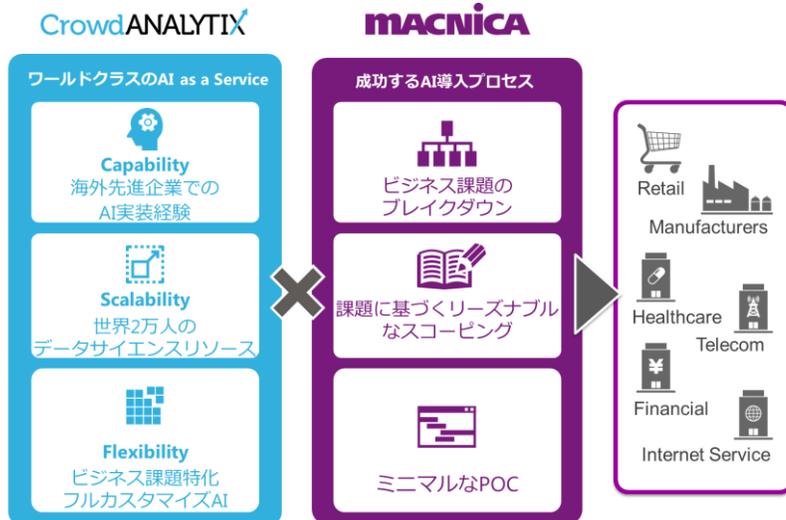
東南アジア市場予測とNetpoleon社実績



2 新規付加価値事業戦略

■ AI

CrowdANALYTIXビジネスのコンセプト

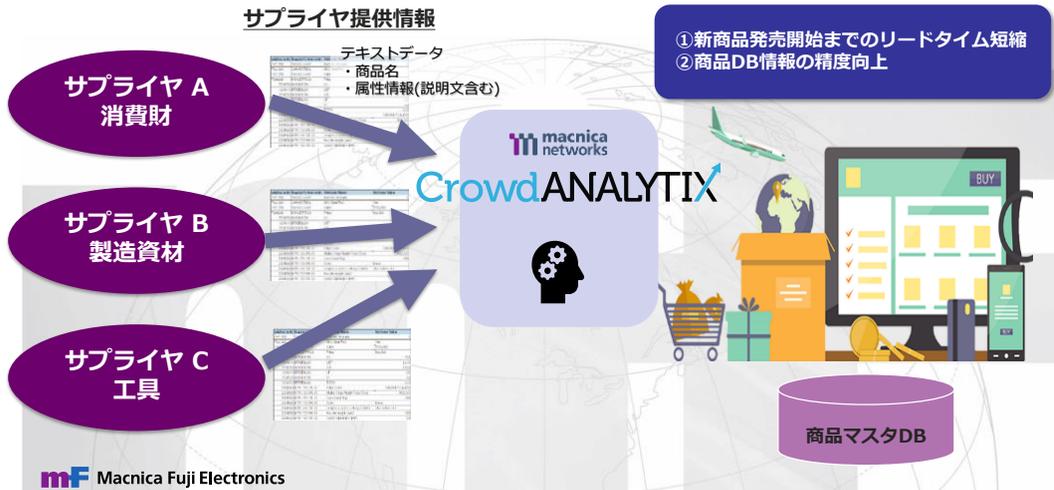


2 新規付加価値事業戦略

■ AI

● 事例：大手EC事業者様

商品カテゴリの自動判定による、商品掲載のスピードアップ



2 新規付加価値事業戦略

■ AI

● 事例：大手専門商社様 (建築関連)

非定型のデータ (画像など) からの自動判定



2 新規付加価値事業戦略

IoTソリューション

スマートファクトリー化に向けた AI x IoTソリューション

製造業向け “Digital Synergy Factory” の提供開始



2 新規付加価値事業戦略

IoTソリューション

スマートファクトリー化に向けた AI x IoTソリューション

製造業におけるAIビジネス拡大

macnica.ai



2 新規付加価値事業戦略

■ 自動運転ソリューション

MacniCAR & Cart



実証実験の増加



NEW
自動運転シャトルバス
「NAVYA」



日本初 茨城県 境町



ショッピングタウン



NEW
大型特殊車両
インテグレーション



鉱山マイニング



プラント構内



NEW
センシング、データ、
ソフトウェア



SLAMによる地図データ



2 新規付加価値事業戦略

■ サービスロボット

自動掃除ロボットNEO

既存ターゲット市場



成田空港様



羽田空港様



空港



大型商業施設

新規ターゲット市場



物流倉庫



工場

3 さらなる業務効率及び資産効率の改善と経営システム基盤への投資

経営システム基盤のコンセプト

持続可能な経営基盤
の再構築

働き方改革の推進

業務の効率化

BCP対応にも貢献

全社一斉テレワーク

95%・約1900人（海外除く）

環境

- ・ノートパソコン支給率100%
- ・スマートフォン支給率95%
- ・VPN同時接続回線数100%
- ・Skype/Teamsインストール98%

経験

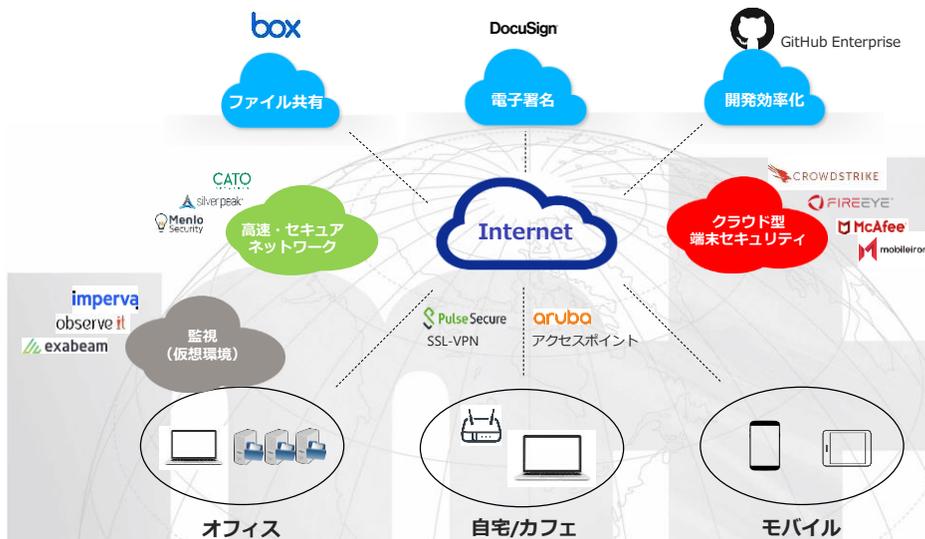
- ・働き方改革進行中
- ・海外仕入先と頻繁なデジタルコミュニケーションを利用した会議

強み

- ・ネットワーク・セキュリティに強いグループ会社の存在

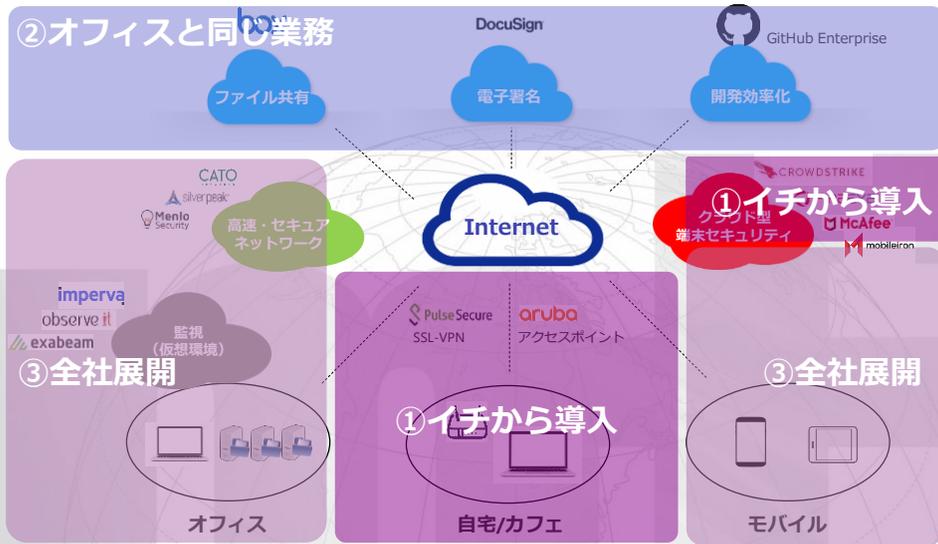
3 さらなる業務効率及び資産効率の改善と経営システム基盤への投資

BCP 対策支援ソリューション



3 さらなる業務効率及び資産効率の改善と経営システム基盤への投資

BCP 対策支援ソリューション



経営数値目標

	2021年度目標
連結売上高	6,500億円以上
連結当期純利益	130億円以上
連結ROE	9.0%以上
営業キャッシュフロー	3年間累積100億円以上

